

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立諏訪中学校

種 別 中学校

所在地 〒206-0024

東京都多摩市諏訪 3-7-1

E-mail daihyo-suwa-chu@city.tama.ed.jp

Website http://schit.net/tama/jhsuwa/

生徒数 男子 136 名 女子 133 名 合計 269 名

生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度＋活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「未来を切り開く諏訪中生 ○意欲 ○共生 ○健康」を学校理念として、ESD を人との関わりを通して生きる力を確立させるための手段と捉え、ESD の実践を通して、思いやりの心や社会性、表現力の育成を目標とした。

具体的には、福祉体験、職場体験、農業体験を柱に、①持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、思いやりの精神)を育てる活動、②コミュニケーション能力を育てる活動、③環境学習を行った。

①持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、思いやりの精神)を育てる活動

福祉体験や職場体験においては、調べ学習を通し、自分を取り巻く環境や様々な立場に目を向け、多様な考え方・価値観を理解することができた。また、体験活動を通し、かかわりをもった相手の思いや願いを感じとり、相手の立場を尊重して考え、自ら行動を起こすことができた。

農業体験においては、農家への民泊と農業体験を通し、人とのつながりを大切にしようとする心情を養うことができた。また、体験学習後にも交流の機会を設け、人とのつながりをさらに深く感じさせることができた。

②コミュニケーション能力を育てる活動

英語科では、「留学生の話聞く会」を開催し、留学生の方を招いて各国の話や文化を伺うことで、多様な文化や価値観について学ばせることができた。また、自国の文化や生徒自身のことについて英語で伝える活動を通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることができた。

福祉体験、職業体験、農業体験において、事前・事後学習での多様な発表・ま

とめの活動(ポスターセッション・ホワイトブック作成等)を通し、言語での表現能力を高めることができた。

③環境学習

農業体験において、東北地方の豊かな自然と農業との関連について学習し、農業の未来に関して自分の考えをもち、「食」に対する認識を深め、「食」を大切にしようとする実践意欲を育むことができた。また、豊かな自然が農業を支えていることを実感させ、自然環境を守ろうとする意欲を育てることができた。

①福祉体験の写真



③農業体験の写真



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・岩手県一関市花泉町に関する書籍各種
- ・東北地方に関する書籍各種
- ・東日本大震災に関連する書籍各種
- ・農業に関連する書籍各種
- ・職業に関連する書籍各種
- ・福祉に関連する書籍各種

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の今年度の総合的な学習の時間の目標は、「ESD を基礎とし、3 回の体験活動を契機として、探求的・問題解決的な活動を通して、自己・他者理解を基にした国際理解と国語や英語での表現力を高める。」であった。このように、総合的な学習においては各学年の指導は常に ESD を意識した取り組みをしていた。

福祉体験・職場体験・農業体験においては、それぞれ課題解決型の学習とし、学年の実態に応じた指導になるように学年担当を中心に計画を立てている。

ESD カレンダーを作成し、教科を横断した能力を育成するための計画を立案した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD を基礎とした総合的な学習の時間の活動のまとめとして、学校全体での発表会を設け、学習内容を学校全体で共有している。

学校の教育目標を達成するための基本方針の中に ESD に関する内容を明記し、学校として組織的に ESD に関わる体制を作っている。また、総合的な学習の時間の全体計画や学年別年間指導計画についても、ESD との関わりを明記して計画を立てている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部の評価としては、年度末の学校評価によって全教員の振り返りを行い、各分掌で次年度の計画立てをしている。

外部の評価としては、各家庭に依頼し、保護者会や三者面談時に保護者からアンケートを回収し、活動内容の見直しの一助としている。

成果としては、作品展や全校での総合的な学習の時間の発表会を行った結果、学習内容が全校・全教員に共通理解されたという点がある。

課題としては、総合的な学習の時間の発表会を学年末に行う都合上、実際の学習時期と大きく離れた時期に発表する学年が出たことが挙げられた。発表会のあり方について、職員会議等で検討していく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学校内での発信としては、各単元の発表活動の他、3 学期に総合的な学習の時間の発表会を行い、各学年での成果を全校に発表している。これにより、来年度以降の学習の見通しがもてるようになった。

学校外への発信としては、学校便り、学年便り等の各種配布物を用いている。学校便りは近隣小学校の 5・6 年生の児童の家庭、地区委員会へも配布している。内容としては、学習内容や進捗状況、学習の成果等があり、各家庭へ情報を発信している。また、発表に用いたまとめ用紙やホワイトブックを「作品展」期間中に展示し、保護者・来校者が自由に閲覧できる状況を作った。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

太平洋戦争の犠牲者の数だけ折り鶴を折る「折りづるプロジェクト」において、株式会社トモエ宛に折り鶴を送付した。

宿泊農業体験において、一関市役所（花泉支所）、花泉グリーンツーリズム協議会、ふるさと花泉会の方と連携し、教育活動を行った。

福祉体験、職業体験において、社会福祉事務所、商工会議所、諏訪商店会、永山商店会、首都大学東京など様々な機関と連携し、教育活動を行った。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

兵庫県立北須磨高等学校(ユネスコスクール)からの依頼で、「祈りづるプロジェクト」に参加し、国際社会に生きる一員として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育てることができた。

多摩市内の小中学校(ユネスコスクール)の代表校・代表生徒により行われる「多摩市子どもみらい会議」に来年度本校が参加予定である。今年度は来年度の発表に向け、教育課程の編成時、発表テーマに関連した教育活動を立案した。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

農業体験を通し、大きく二つの変容が見られた。

一つ目は、農業に興味をもつ生徒が増えた事である。生徒がまとめたホワイトブックの感想ページには、農業に対して好意的な意見が数多く見られた。

二つ目は、人とのふれあいを大切にしようとする心情を抱く生徒が多くなったことである。民泊を嫌がっていた生徒も、学習を通し、民泊先の農家の方について好意的な話をするなど、変容が見られた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

○1 年

- ・国際理解について学び、考えを深める(15 時間)
- ・社会福祉について学び考え、実践する(20 時間)
- ・探求したことを、より効果的に伝えることで、課題解決の能力を身につける(15 時間)

○2 年

- ・国際理解について学び、考えを深める(20 時間)
- ・職業・仕事について学び考え、実践する(30 時間)
- ・探求したことを、より効果的に表現することで、課題解決の能力を身につける(20 時間)

○3 年

- ・農業や食生活、東北地方の自然や文化について学び考え、実践する(30 時間)
- ・国際理解について学び、考えを深める(20 時間)
- ・探求したことを、より効果的に伝えることで、課題解決の能力を身につける(20 時間)